

智恵子抄その後

© Ryuseikaku Japan



昭和二十五年十一月十五日 印
 昭和二十五年十一月二十日 發行
 昭和四十三年一月五日 第卅二刷
 昭和四十四年一月五日 第卅三刷
 昭和四十五年一月五日 第卅四刷
 昭和四十六年十一月二十日 第卅五刷

昭和四十七年十二月一日 第卅六刷
 昭和四十九年十二月一日 第卅七刷
 昭和五十一年十二月一日 第卅八刷

定價 千圓

著者 高村光太郎

編集兼 發行者 澤田伊四郎

東京都千代田區九段南四ノ八ノ三四

發行所 龍 星 閣

東京都千代田區九段南四ノ八ノ三四
 坂 替 口 座 東 京 三 三 六
 電 話 九 段 (三三) 九 二 七 二

智恵子抄その後

高村光

智恵子抄その後

智恵子は死んでよみがへり、
わたくしの肉に宿すここに生き、
かくの如き山川草木にまみれて
よろこぶ。

光

元素智惠子

元素智恵子

智恵子はすでに元素にかへつた。

わたくしは心靈獨存の理を信じない。

智恵子はしかも實存する。

智恵子はわたくしの肉に居る。

智恵子はわたくしに密着し、

わたくしの細胞に燐火を燃やし、

わたくしと戯れ、

わたくしをたたき、

わたくしを老いぼれの餌食にさせない。

精神とは肉體の別の名だ。

わたくしの肉に居る智恵子は、

そのままわたくしの精神の極北。

智恵子はこよなき審判者であり、

うちに智恵子の睡る時わたくしは過ち、

耳に智恵子の聲をきく時わたくしは正しい。

智恵子はただ嬉々としてとびはね、

わたくしの全存在をかけめぐる。

元素智恵子は今でもなほ

わたくしの肉に居てわたくしに笑ふ。

メ
ト
ロ
ポ
オ
ル

メトロポオル

智恵子が憧れてゐた深い自然の眞只中に

運命の曲折はわたくしを叩きこんだ。

運命は生きた智恵子を都會に殺し、

都會の子であるわたくしをここに置く。

岩手の山は荒々しく美しくまじりけなく、

わたくしを圍んで假借しない。

虚偽と遊惰とはここの土壤に生存できず、

わたくしは自然のやうに一刻を争ひ、

ただ全裸を投げて前進する。

智恵子は死んでよみがへり、

わたくしの肉に宿つてここに生き、

かくの如き山川草木にまみれてよろこぶ。

變幻きはまりない宇宙の現象、

轉變かぎらない世代の起伏、

それをみんな智恵子がうけとめ、